

氏名	兵 頭 浩二郎
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第373号
学位授与の日付	昭和44年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	農薬ドリリン剤の循環器系機能に及ぼす作用 第1編 ドリリン剤の末梢血管に対する作用 第2編 ドリリン剤の蛙心に及ぼす作用 第3編 ドリリン剤の犬血圧に及ぼす作用及びドリリン剤中毒家兎の心電図学的研究
論文審査委員	教授 平木 潔 教授 小坂 淳夫 教授 大藤 真

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ドリリン剤の循環器系に及ぼす作用をみるため家兎耳殻の末梢血管、蛙摘出心、犬血圧、家兎心電図等に及ぼす作用を検討し以下の結果を得た。

第1編：ドリリン剤は家兎耳殻の末梢血管を拡張せしめ、その作用は血管壁の収縮細胞に直接作用するものであることを明らかにした。

第2編：蛙摘出心には抑制的に働き振巾の減少、房室ブロック等を生ぜしめ、atropine, adrenaline等の前処置によってもこの抑制作用は軽減されなかった。

第3編：ドリリン剤は犬血圧を下降せしめるが痙攣の発生と共に血圧は上昇する。adrenalineはこの下降作用を阻止するが、atropino や他の節遮断剤は阻止し得なかった。

ドリリン剤投与家兎の心電図では心搏数の減少、T平低化・陰性化、ST降下などがみられ、心筋に障害的に働くと考えられる。左脚ブロック、心房細動、心室性期外収縮、multifocal, idioventricular rhythmなどのみられたものがあつた。少量長期投与例には異常をみなかった。

以上、ドリリン剤は末梢血管を拡張し、血圧を下降せしめ、また心機能に障害的に作用することを明らかにした。この成績は臨床面でドリリン剤中毒の治療に一つの示唆を与えるものと考える。

(3編共に、昭和43年8月30日発行、岡山医学会雑誌第80巻7、8合併号に掲載)

論文審査の結果の要旨

本研究は、本邦で多発しているドリリン剤（有機塩素系殺虫剤）中毒の病態解明の一環として、その循環器系機能に及ぼす作用を実験的に研究したものであるが、従来殆んど知られていなかった本剤中毒時の病態生理に重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。